

## 英語ライティング授業におけるラジオ・ドラマの使用 (2)

### — インプット素材としての可能性の再検討 —

達 川 奎 三

広島大学外国語教育研究センター

本研究の目的は、大学教養教育英語ライティング授業におけるラジオ・ドラマ使用の有用性を再検討することである。学習者の聴解力育成に関わって、映画やテレビ・ドラマなどの視聴覚教材の利点について多くの報告がある。しかしながら、外国語教育におけるラジオ・ドラマの活用についての報告は少なく、とりわけ作文指導における有用性の報告はほとんどない。達川 (2015) では、ラジオ・ドラマをライティング活動のインプット素材として用い、学習者の受け止めなどについて調査し、肯定的な結果を報告した。本論では、学生の専攻や英語習熟度などが異なっても、同様にインプット素材としての有用性が支持されるかを検証することとする。

### 1. インプットとアウトプットの重要性

言語教育の目的は、最終的には学習者が「言語産出」できるようになることを支援することであろう。第二言語習得においては、まずは聞いたり読んだりすることを通して、言語知識を獲得することが肝要であり、Krashen (1985) の Input hypothesis では「適切な量と質のインプットがあれば言語習得はなされる」とされた。この仮説では、その質について「理解可能なインプット (Comprehensible Input)」が必要であり、それを“ $i + 1$ ”と表現した。しかし、インプットは大量に与えればよいというものでなく、インプットに含まれている言語がもつ特徴に学習が「気づく」ことが重要である。柴原 (2015) は「語学学習においては“understand”のレベルで止めてしまっただけでは、(アウトプットの) スキル化はおぼつかない。インプットの段階でアウトプットを意識することが大切である」と述べている。他方、アウトプットの役割と重要性は広く認識されるようになり、スピーキングやライティングは単に言語技能としてだけでなく、第二言語習得を促進する要素として捉えられるようになった (Swain 1985, 1995)。アウトプットは、意味処理から統語処理への移行を促進し、気づきの機会を提供し、明示的宣言的知識の自動化をスムーズにさせることなどが、多くの研究で実証されつつある。例えば、村野井 (2015) は「気づきや仮説修正のプロセスを経て、正確性が高まっていく。素早く即応的に口頭で英語が使えるようになるためには、言語知識の『自動化』または『手続き化』と呼ばれるプロセスが必要」であると主張している。このような認識のもと、大学の「限られた期間に正確でかつ適切なアウトプットへつなげるためのインプット源としての教材開発と、指導法の開発が急務である」ことを多くの関係者が認識している (岡, 金子, 佐野, 遊佐, 2010: 158-159)。さらには、実際のコミュニケーションの中でしか培うことのできない方略的能力もあり、インタラクションを確保することの重要性が認知され、数多くの CS 研究がなされたことは周知のとおりである (Bialystok 1983, Horwitz 1987, Tarone 1981, 岩井 2000, 中谷 2005)。



図1 言語習得に必要な活動

## 2. ストーリー性を持つ視聴覚教材の使用

視聴覚機器の技術革新やマルチメディア化に伴い、外国語教育の分野でも教授者はそれらの恩恵を大いに享受している。映像付きの音声教材（audio-visual materials）のメリットとしては以下のようなものが考えられる。

- (1) 言語使用のさまざまな場面を容易に提示できる。
- (2) 複雑な意思疎通パターンを伴う人間関係を短時間で明確化できる。
- (3) 音声情報が完全に理解できなくても視覚情報が内容理解を助ける。
- (4) 真正さのある視聴覚教材は、目標言語で提示される情報を見たり聞いたりすることを動機付ける。

近年さまざまな視聴覚教材や ICT の活用例が報告されているが、中でもストーリー性のある映画素材は、映像付きの authentic なリスニング教材として広く活用されてきた。角山（2004, 2005, 2006）は、英語教育におけるこれまでの映画素材の活用に関する実践と研究をまとめ、

- (1) 動機付けにおける効果がほぼ全面的に支持されてきた。
- (2) 聴解力向上に関する効果についてはまだ十分に明らかにはなっていない。

と成果と課題を総括している。この研究は高く評価され、大変示唆に富むものであると筆者は考える。ただ、残念ながら、教育効果（聴解力向上）に関する検証（実証的研究）は困難な場合が多い。その理由としては、教育効果に影響を与える要因をいかに統制（制御）するか、また、それらをうまく統制できたとしても英語力の伸長をどのような手法で測定するか、などが挙げられる。(2) の課題については、今後の研究の積み重ねが必要であるが、ストーリー展開のある映画素材が学習への動機付けに資していることは多くの教師が認めるところである。

このような背景もあり、近年 CD や DVD 付属の大学生用テキストが爆発的に増え、学生・教師の双方から支持されている。ただ、これらの視聴覚教材は受容技能（receptive skills）を伸長させるためのインプット素材として使用されるのが主であり、アウトプット（言語産出）に活用する実践報告はあまりなされていない。ましてやラジオ・ドラマを使用しての報告は、筆者の知る限り皆無と言ってよい。

## 3. ラジオ・ドラマを活用してのライティング指導

外国語ライティング指導を設計する際に、教師を悩ませる大きな問題の一つは、学習者の「書きたいこと（表現したいこと）」と「書けること（表現できること）」の間にギャップがあるということである（長崎，三代地，下村，1999）。多くの場合、初級学習者は「書けること（表現できること）」が「書きたいこと（表現したいこと）」を大きく下回り、他方、大学生などの中級以

上の学習者の場合は「書ける力（表現できる力）」はある程度備わっていても、「書きたいこと（表現したいこと）」が見つからない（思い浮かばない）、つまり書くための動機付けが弱い場合も多い。また、英作文をさせる場合に、話題によっては学習者に「自己開示」を求めることもあり、その選定には慎重さが求められ、読者となる教師やクラスメートとの人間的信頼関係の構築も必要である。（鈴木 2004）

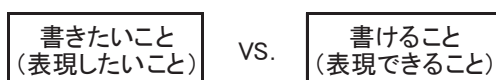


図2 ライティング指導における課題

そこで、学習者に対して「書きたいこと（表現したいこと）」に関する刺激（きっかけ）をどのようにして与えるか、換言するならば、どのように「書くこと」に向けた「動機付け」をすべきかを模索した。その過程で、ラジオ・ドラマを単なる聴解力を伸長するための教材としてだけでなく、アウトプットを促進（刺激）するためのインプット素材として活用できるのではないかと考え、ライティング力伸長を目指す授業で実践してみた（達川 2015）。その授業（実践）内容は以下のとおりであった。

開講時期：2013 年度後期

開講科目名：コミュニケーションⅡA（ライティング技能の伸長を目指す必修科目）

使用教材：Acapulco Vacation Jeremy Harmer & Don Maybin 著、（編）達川奎三、築道和明、Walter Davies、田頭憲二（南雲堂、2009 年）11 エピソードから構成されたラジオ・ドラマで、原作は *Coast to Coast 3* (Longman 1988) に収録されている。（要約文は達川（2015）【Appendix 1】に掲載。）

受講者：文系専攻大学 1 年生（経済部、法学部、文学部、総合科学部）28 名

（TOEIC® スコアのクラス平均は 593.3 点、内訳は L=302.5 点、R=290.8 点）

具体的な授業（学習）内容としては、学生は連続性のある 11 エピソードを 1 つずつ、付属 CD で予め（授業までに）何度も聞き、授業の冒頭でオープン・タイプの（多肢選択ではない）内容把握問題（課題小テスト）に英語で書いて答えた。その際、英語による解答の「情報性」を重視し、学生個々が一番自信の持てる表現で、意図する「情報」を伝えることを奨励した。例えば、次のような具合である。

（例 1）Episode 4: Facts and Photographs

Q4. What will happen to Amy and Jessica if they can't get the story?

- ・ They will probably have to leave their newspaper company, the Daily Reporter.
- ・ They will have to find another job.
- ・ They will lose their job as journalists.

「もし（新聞記者研修生である主人公の）Amy と Jessica が記事を書けなかったら、どうなるか？」という問いに対して、その際は「失職する」というのが正解である。この「情報」を伝えることができるさまざまな英語表現を、学生に発表させたり教師が提示したりする。その際、学生自身が一番自信の持てる英語表現の使用を心掛けることを繰り返し促した。これはある 1 つの言語機能（communicative function）を実現しようとする場合にさまざまな言語形式が可能であり、また、1 つの文法形式（grammatical structure）にはさまざまな言語機能の可能性があるという事実を、学生に意識化させる狙いがあった。

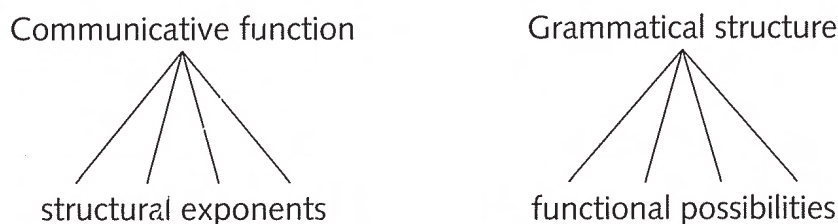


図3 Form and function: the relationship between the grammatical forms of a language and their communicative function

(McDonough, J. and Shaw, C. 2003: 23)

さらに、この「情報性」を重視し、学生個々が一番自信の持てる表現で、意図する「情報」を伝える練習を確保するという考え方は、染谷（2010）が推奨する「メモからのフルメッセージ復元練習」の留意点と相通じる点がある。彼は「なお、復元のときに、必ずしも原文と言語的な表層構造が一致する必要はありません。指導者は、原文の内容が過不足なく復元再構成されていること、および産出された発話が文法的・修辭的・語用論的に適確であるか、この 2 点が満たされているかどうかをチェックし、適宜——必要なときに必要なだけの、という原則に基づいて——問題が起こったときにその場でアドバイスを与えるようにします。」と述べている。大変示唆に富む教授法であると考えられる。

さらに、授業では課題小テストの後、内容理解の質問（comprehension questions）を 1 つずつクラス内で吟味し、自己採点をさせた。また、学期末にはストーリー全体の要約を 500 語程度の英語でタイプ打ちし、提出することとした。（他方、この教材とは全く関わりのないメール作文課題を月に 1 回課し、さらには英検準 1 級の二次面接カードを用いて「ストーリー」を描写する口頭練習も行った。）

#### 4. 本研究のデザイン（概要）

本研究では、達川（2015）で報告した対象学生数が 28 名であったので、データの数を増やすことを目指した。その際、学生の専攻や英語習熟度などが異なっても、同様にラジオ・ドラマのインプット素材としての有用性が支持されるかを合わせて検証することとした。新たに 2 グループの受講生（工学部 23 名、教育学部 26 名）に対して同じフォーマットで授業を展開した。得られたデータをもとに、以下の 3 つの課題を明らかにしてみたい。

- (1) 達川（2015）で報告したライティング指導における「ラジオ・ドラマのインプット素材としての有用性」は追認されるか。
- (2) その有用性は、英語習熟度が同レベルの受講学生の専攻が異なっても支持されるか。
- (3) その有用性は、受講学生の英語習熟度が違っても支持されるか。

合計 3 グループの専攻や英語力に関する情報は以下の通りである。

表 1 3 グループの受講学生数と英語習熟度

		<i>n</i>	TOEIC	L	R	<i>SD</i>
G1	文系学部	28	593.3	302.5	290.8	58.6
G2	工学部	23	623.3	310.7	312.6	54.6
G3	教育学部	26	373.3	204.6	168.7	8.5

表 2 3 グループの受講学生の  
英語習熟度分布

TOEIC(T)	文系	工学	教育
350-			10
357-			16
400-			
425-			
450-			
475-			
500-	2		
525-	3		
550-	6		
575-	7	7	
600-	5	9	
625-		3	
650-	1	1	
675-	1	1	
700-	1	1	
725-	1		
750-			
775-	1		
800-		1	
<i>n</i>	28	23	26

文系学部生と工学部生の重なり度は 15 名と 22 名の計 37 名の 72.5% である。筆者の勤務校では、英語授業のクラス分けを TOEIC® スコアに基づいて行っており、G1 と G2 はそれぞれの専攻群の一番上位クラスであり、G3 は教育学部群の 11 クラス中の 8 番目であった。それ故、G1 と G2 の平均値は 600 点前後であり、G3 は 400 点以下となっている。3 グループの英語習熟度について、G1 と G2 の間には有意な差はなく [ $t(49)=0.58, p>.50$ ], G3 は表 1 が示すように G1, G2 とともに全く異なる集団である。それ故、G1 と G2 に関して英語習熟度はほぼ同じであるが専攻が異なり、G3 は G1, G2 とは英語習熟度が異なる集団と考えて良い。

## 5. 学生の受け止めの調査（アンケートの実施）とその結果

英語ライティング授業において、ラジオ・ドラマをインプット素材として活用することの有用性などについて考察するために、受講者に対して学期末に授業評価アンケートを実施した。質問1～12は4件法で回答し、質問13は自由記述とした。質問項目は以下のとおりである。

回答選択肢（質問1～12）

1. 全くそう思わない
2. そう思わない
3. そう思う
4. 強くそう思う

教材 *Acapulco Vacation* について

- （質問1）使用した教材 *Acapulco Vacation* は楽しく学習できた。
- （質問2）使用した教材 *Acapulco Vacation* の難易度は適当であった。
- （質問3）使用した教材はリスニング力を伸ばすことに役立った。
- （質問4）毎週の「課題小テスト」は、ライティング力を伸ばすことに役立った。
- （質問5）期末の「要約文課題」は、ライティング力を伸ばすことに役立った。

「メール課題」について

- （質問6）月の1度の「メール作文課題」は、楽しく取り組めた。
- （質問7）月の1度の「メール作文課題」は、ライティング力を伸ばすことに役立った。

「ストーリー」を描写する活動（Story-telling）について

- （質問8）絵を見て「ストーリー」を描写する活動（Story-telling）は、楽しく学習できた。
- （質問9）絵を見て「ストーリー」を描写する活動（Story-telling）は、英語発信力を伸ばすことに役立った。

授業全般について

- （質問10）この授業を通して、（以前より）英語ライティングに対する意欲が高まった。
- （質問11）この授業を通して、（履修前と比べて）英語ライティングのコツが分かった。
- （質問12）今回のような「ラジオ・ドラマ」を教材として使うのは良いと思う。

自由記述コメント

- （質問13）今回使用した教材 *Acapulco Vacation* に関して、感想や意見があれば自由に書いてください。【用紙の右側にある空白部分を使ってください。】

3グループそれぞれの受講学生及び全体の回答結果は以下に示すとおりである。

表3 受講学生による受け止め（授業評価アンケートの回答平均値）

	n	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
文系	28	3.50	3.21	3.46	3.39	3.46	2.68	3.43	2.96	3.18	3.18	3.29	3.54
工学	23	3.39	3.26	3.26	3.17	3.39	2.83	3.48	3.04	3.30	3.04	3.17	3.43
教育	26	3.73	3.38	3.46	3.69	3.46	2.92	3.50	3.27	3.38	3.23	3.23	3.81
全体	77	3.55	3.29	3.40	3.43	3.44	2.81	3.47	3.09	3.29	3.16	3.23	3.60

表4 文系学部受講生（G1）28名の回答

選択肢	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0
2	0	3	2	1	0	8	0	6	5	4	1	1
3	14	16	11	15	15	15	16	14	13	15	18	11
4	14	9	15	12	13	3	12	7	10	9	9	16

表5 工学部受講生（G2）23名の回答

選択肢	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1
2	1	2	0	4	2	10	0	5	3	5	2	1
3	9	13	14	8	10	7	9	12	10	12	15	8
4	12	8	8	10	11	6	13	6	10	6	6	13

表6 教育学部受講生（G3）26名の回答

選択肢	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
2	0	2	2	0	0	6	2	4	3	3	3	0
3	7	12	10	8	14	13	9	11	10	14	14	5
4	19	12	14	18	12	6	15	11	13	9	9	21

表7 受講学生全体77名の回答

選択肢	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
1	1	0	1	1	0	3	1	1	0	0	0	1
2	1	7	4	5	2	24	2	15	11	12	6	2
3	30	41	35	31	39	35	34	37	33	41	47	24
4	45	29	37	40	36	15	40	24	33	24	24	50

また、質問13の「自由記述コメント」については、その全文を【Appendix】として掲載することとする。



## 6. アンケート結果の考察

本研究の目的はラジオ・ドラマをライティング活動のインプットとして用いることの有用性について検討することであるので、これに直接関わる質問（1～5. と 10～12. 及び自由記述 13.）の結果についてのみ吟味することをする。授業評価アンケートにおける3グループの回答平均値と各問の回答者数は図4、5に示す通りである。

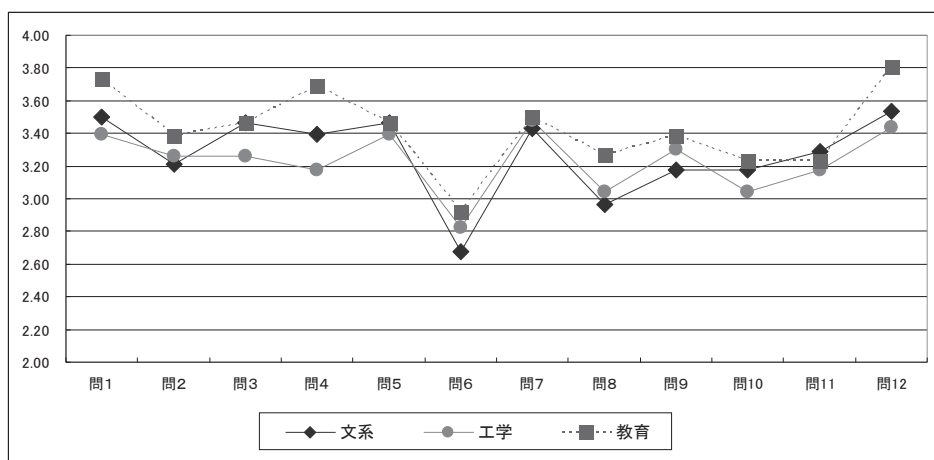


図4 授業評価アンケートにおける3グループの回答平均値

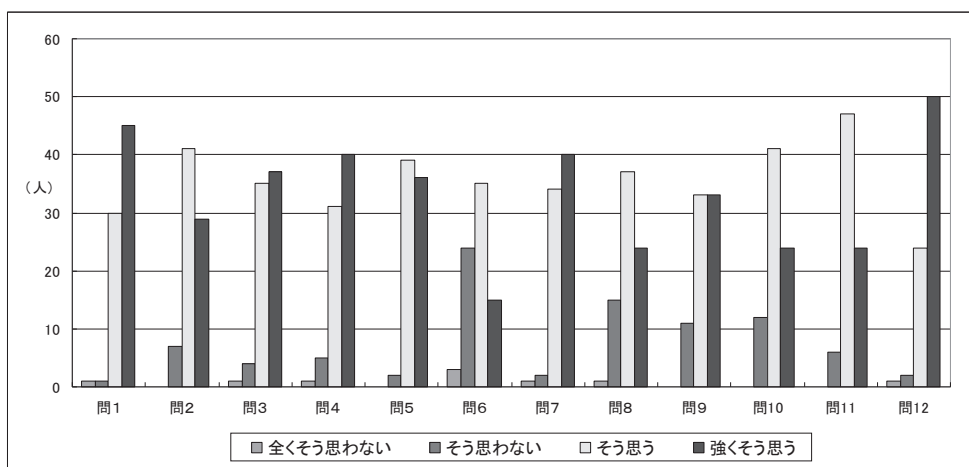


図5 授業評価アンケートにおける各問の回答者数（総数77名）

問1～5と問10～12のすべての質問に対して、回答平均値が3.00を上回り、受講生全体として「教材」や「授業全般」に関して肯定的な受け止めをしていると考えて良いであろう。また、図4に示すとおり、3グループの受け止めはほぼ同様のパターンが見てとれる。ただ、G3、G1、G2の順により肯定的な回答をしている傾向がある。とりわけ、問1、4、12についてはG3の肯



定的な受け止めが顕著である。このことは、英語習熟度については TOEIC® スコア平均が 373.3 点（全員が 350 点～395 点）と決して高いとは言えないが、その多くが将来教壇に立つことを目指すという同じ目標を有する等質の学習者集団（ $SD=8.5$ ）であり、クラス自体の雰囲気がとても良かったことも影響しているかも知れない。

## 6.1. 教材 *Acapulco Vacation* について

まず、授業で用いた教材（ラジオ・ドラマ）について、質問 1. 「使用した教材 *Acapulco Vacation* は楽しく学習できた」かについて問うものであるが、「強くそう思う」が 45 人（58.4%）と半数以上が超え、「そう思う」も 30 人（39.0%）おり、ほぼ全員（97.4%）が肯定的な受け止めをしている。自由記述コメントにある「ストーリー性があり、学習しやすかった」「内容もおもしろかったので楽しく取り組むことができた」「ドラマティックな話が題材なのでとても取り組みやすかったし、楽しかったです」「次の回のエピソード展開が楽しみで予習も意欲的にできた」などからも、それを窺うことができる。また、質問 2. 「使用した教材 *Acapulco Vacation* の難易度は適当であった」かに関しては、「そう思わない」が 7 人（9.1%）、「そう思う」が 41 人（53.2%）、「強くそう思う」29 人（37.7%）であった。ただ、否定的な回答をした 7 人の自由記述コメントには、「内容もおもしろかったので楽しく取り組むことができた」「教材が良かったと思います」「アカプルコ・バケーションは最初のほうがかなり難しく、物語が進むにつれ、内容が把握しやすくなることもあり、徐々に分かるようになっていった。しかし、やはり全体的に難しかったように自分には思われたので、左の間 2『難易度は適当か』は②と解答しました。内容はしっかりしていて楽しかったです」（教育学部生）などとあるので、本研究での教材（ラジオ・ドラマ）使用を否定するものとは言えない。（他の 2 人は難易度以外についてのコメントをしており、残る 2 人はコメントなし。）次に、「使用した教材はリスニング力を伸ばすことに役立った」かについては、否定的な回答をした者が 5 人（6.5%）、「そう思う」が 35 人（45.5%）、「強くそう思う」37 人（48.1%）で、9 割以上（93.5%）が評価しており、使用した教材はもともと「英語聴解力（リスニング力）」の伸長を目的としたものであるので当然の結果と言えよう。自由記述コメントにも「ストーリーを楽しみながらリスニング力を身につけられたのでよかった」「『ラジオ・ドラマ』を教材とした授業は初めてでしたが、単語表現やリスニングの力の向上に大いに役に立ったと思います」などの感想が見られた。質問 4. 「毎週の『課題小テスト』は、ライティング力を伸ばすことに役立った」かについても、否定的な回答をした学生が 6 人（7.8%）、「そう思う」が 31 人（40.3%）、「強くそう思う」が 40 人（51.9%）であり、ほぼ全員（92.2%）にとって課題小テストが役立ったと考えられる。自由記述部分のコメントに「毎回の小テストはとても有意義だったと思います」とあり、主としてセンテンス・レベルの産出ではあるが英作文力を伸張させるのに有効であると判断でき、パッセージ（談話）レベルのライティングへの橋渡しと成り得たと考える。最後に、質問 5. 「期末の『要約文課題』は、ライティング力を伸ばすことに役立った」かに関しては、「そう思う」が 39 人（50.6%）、「強くそう思う」が 36 人（46.8%）でほぼ全員（97.4%）が役立ったと捉えている。500 語程度の要約文を書くというのは、要求度の高い（demanding な）課題ではあるが、専攻や英語習熟度の違いを乗り越えて、多様な大学生に達成可能な（achievable な）課題（タスク）であり、それを学習者も肯定的に捉えている。質問項目 5 つの平均値はすべて 3 点を上回り（4 点満点の 3.29～3.55）、学習者の教材に対する評価は概ね肯定的であると結論付けることができよう。

## 6.2. 授業全般について

次に、ライティング授業全般に関する質問 10.～12. の回答結果について考えてみたい。質問 10.「この授業を通して、(以前より) 英語ライティングに対する意欲が高まった」かについては、「そう思わない」が 12 人、「そう思う」41 人、「強くそう思う」24 人で、受講者の 84.4%が英語ライティングに対してより意欲的に取り組むきっかけとなったようである。また、質問 11.「この授業を通して、(履修前と比べて) 英語ライティングのコツが分かった」かについては、71 名 (92.2%) が肯定的な回答をしている。自由記述の中にこのことが窺えるコメントは特定しにくい。毎回の課題小テストなどにおいて、英語による解答の「情報性」を重視し、学生個々が一番自信の持てる表現で、意図する「情報」を伝えることの大切さを、授業者が繰り返し強調したことが有益であったのではないかと推測される。中邑 (2006) が主張するように、「(英語をスラスラと書くのではなく、) 考え、一文ごとに納得しながら、コツコツと英文を書くことを学習者には教えたい」。さらに、質問 12.「今回のような『ラジオ・ドラマ』を教材として使うのは良いと思う」かについては、やはり 74 名 (96.1%) が肯定的な回答をし、とりわけ 50 名 (64.9%) という約 2/3 の学生が「強くそう思う」と回答しているのは、ラジオ・ドラマがライティング力伸長のためのインプット教材と成り得る可能性を十分に支持するものと考えられる。

## 6.3. 英語習熟度及びアンケートの各質問項目の相関

次に英語習熟度及びアンケートの各質問項目の相関を考察してみることとする。その際、本研究の目的はラジオ・ドラマをライティング活動のインプット素材として用いることの可能性について探ることであるので、これに直接関わる質問 (1.～5. と 10.～12.) の結果についての数値のみ示すこととする。

表8 英語習熟度とアンケートの各質問項目との相関 (77名分)

	L	R	T	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(10)	(11)	(12)
L	1.00										
R	0.74	1.00									
T	0.92	0.94	1.00								
(1)	-0.10	-0.21	-0.17	1.00							
(2)	-0.11	-0.11	-0.12	0.49	1.00						
(3)	-0.05	-0.05	-0.06	0.44	0.45	1.00					
(4)	-0.18	-0.29	-0.26	0.49	0.39	0.44	1.00				
(5)	0.05	-0.02	0.01	0.26	0.36	0.27	0.51	1.00			
(10)	-0.03	-0.13	-0.09	0.44	0.46	0.52	0.55	0.49	1.00		
(11)	0.09	0.01	0.05	0.27	0.28	0.30	0.41	0.33	0.44	1.00	
(12)	-0.25	-0.31	-0.30	0.72	0.34	0.41	0.52	0.34	0.48	0.27	1.00

$r > .23, p < .05$

表8の数値から、以下のようなことが分かる。

- (1) 学生の英語習熟度とアンケートの各質問項目との間に、弱い負の相関が見られた。表3や図4からも窺えるように、英語習熟度が高い学習者集団 (G1, G2) よりも、あまり高くない集団 (G3) の方が「教材」「授業全般」についてより肯定的な受け止めをした傾向がある。

- (2) 学生の英語習熟度、つまり TOEIC® スコアと問 4 や問 12 との間には弱いながらも負の相関が顕著であった。ライティング授業に「ラジオ・ドラマ」を教材として用いること（問 12）や毎週の（定期的な）課題テスト（問 4）は、英語習熟度の高い学生に対してよりも、習熟度の低い学生に対して有益である可能性がある。このテキストの対象レベルは大学生中級以上であるが、英語があまり得意でない学生に対して、ストーリー性のある教材を用いることの意義を示唆するとしても良いのではなかろうか。
- (3) 問 1 と問 12 の間には 0.72 とかなり高い相関が見られた。「ラジオ・ドラマ」を教材として使うには「楽しく」学習できることが大前提であると言える。
- (4) 問 10 とその他の問いとの間には、それぞれ 0.44 以上という比較的高い相関が見られた。「ラジオ・ドラマ」を用いて、学生の英語ライティングへの意欲を高めるためには、毎週の（定期的な）課題テストなどを通してライティング力を伸ばすことができたと感じ（問 4）させ、自身のリスニング力が伸び（問 3）、楽しく学習できる素材を提供（問 1）することなどが有益であろう。
- (5) 問 4 とその他の問いの間にも、それぞれ 0.39～0.55 という比較的高い相関が見られた。地道な取り組みではあるが、毎週の（定期的な）課題テストなどを通して数多くの英文を書かせる機会を与え、その結果としてライティング力を伸ばすことができたと感じ（問 4）できれば、「教材」や「授業全般」に対する満足度が保障される可能性が高いと言えよう。

#### 6.4. 自由記述コメントについて

最後に「自由記述」部分（「今回使用した教材 *Acapulco Vacation* に関して、感想や意見があれば自由に書いてください」）について考察する。自由記述内容の分析には KH Coder (<http://khs.sourceforge.net/>) を用いることとした。回答した学生数 62 名 (80.5%)、文の総数 117 文、総語数 903 語、異なり語数 303 語であった。その際、以下のような教材に関する受け止め以外のコメントについては除外した。

- ・メール課題は実用性があって役に立つ。
- ・英検の絵を見て英語で説明するのは、少しむずかしいし、人に聞いてもらうのは少し気がひけました。
- ・誤文チェックは解説が分かり易かった。
- ・ありがとうございました。(7 件)

また、前処理の段階で、「Acapulco Vacation」及び「アカプルコ・バケーション」は「教科書」に、また「ラジオドラマ」は「ラジオ・ドラマ」に統一した。

自由記述回答に見られたコメントに 8 回以上出現した上位 18 語とその度数は表 9 のようになった。

表9 教材に関する自由記述回答に見られた8回以上出現した上位8語とその度数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	42	授業	15	ドラマ	9
教科書	32	学習	14	物語	9
ストーリー	25	難しい	12	分かる	9
内容	22	面白い	12	ラジオ	8
楽しい	20	英語	11	難易	8
リスニング	18	良い	10	話	8

自由記述の内容をより詳しく吟味するために、これらの単語についてネットワーク図を作成した（図6参照）。

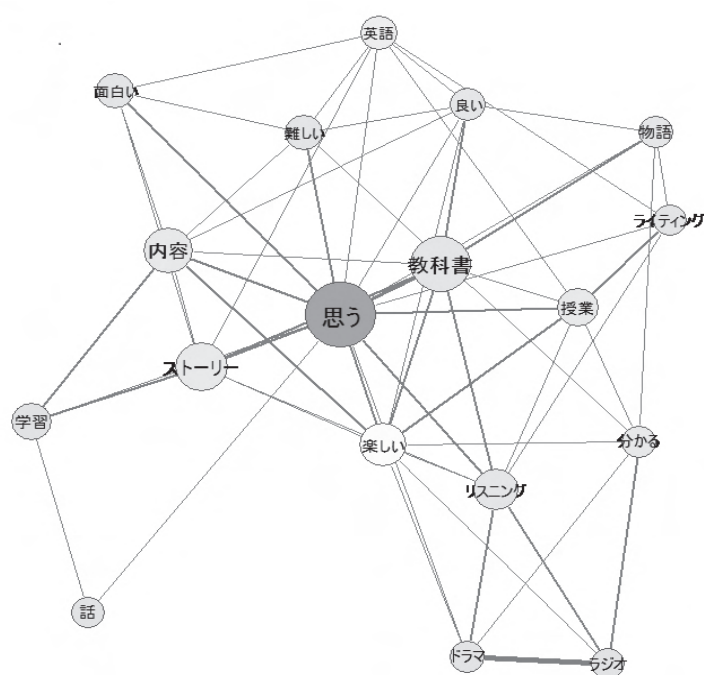


図6 教材に関する自由記述回答から得られた単語のネットワーク図

まず、このネットワーク図や出現回数から言えることは、学習者にとって使用した教材・ストーリーが「楽しい」ものであったということであろう。「楽しく」「楽しい（面白い）」というキーワードが出現するコメントに以下のようなものがあった。

- ・内容もおもしろかったので楽しく取り組むことができた。
- ・教科書のストーリーが楽しめたので苦がなく学習できました。
- ・ラジオ・ドラマだったので、「勉強」という感じはあまりせず楽しく学ぶことができた。
- ・教材は、ストーリー形式になっていて、内容もおもしろく、良かったと思う。

2 点目はラジオ・ドラマの特性である「ストーリー（展開性）」「内容」を、学習者が教材として肯定的に捉えているということである。「展開」「次（回）」「物語」というキーワードが出現するコメントに以下のようなものが見られた。

- ・ 次の回のエピソード展開が楽しみで予習も意欲的にできた。
- ・ 全部がストーリー仕立てになっていたのも、次の展開がどうなるんだろうと楽しみながら学習することができた。
- ・ 教科書で学習するのは、楽しかったので良かったと思います。次回の内容も気になったので、ストーリーも面白かったです。
- ・ 教科書は物語形式になっていたのも毎週楽しくリスニングの訓練ができた。

3 点目は、使用した教材はもともと「英語聴解力（リスニング力）」の伸長を目的としたものであったが、英語力全般を伸張するのに有益であったという点である。

- ・ ストーリーを楽しみながらリスニング力を身につけられたのでよかった。
- ・ リスニングもライティングもあって始めは難しそうだったが、終わってみると力が付いたのではないと思う。
- ・ 語彙も増やせるし、リスニングなどもあってバランスがよいと思います。
- ・ 教科書は物語形式になっていたのも毎週楽しくリスニングの訓練ができた。

以上をまとめてみると、ラジオ・ドラマは学習者が「ストーリー展開」を「楽しむ」ことができれば、リスニング教材としてだけでなく、ライティングをはじめとする英語力全般を伸長する教材と成り得る可能性があることが、再度確認できた。

## 7. 教育的示唆（まとめ）

これまでの議論から、3 グループの受け止めはほぼ同様の肯定的パターンが確認できた。それ故、本論で探求しようとした3つの研究課題は以下のように結論づけて良いであろう。

- (1) ライティング指導における「ラジオ・ドラマのインプット素材としての有用性」は十分に認めることができた。
- (2) その有用性は、英語習熟度が同レベルの受講学生の専攻が異なっても支持された。
- (3) その有用性は、受講学生の英語習熟度が違ってても支持された。

また、本研究での学生の受け止めから、英語ライティング授業においてラジオ・ドラマをインプット素材として使用することに関する教育的示唆として、以下のようにまとめることができる。

- (1) 映画（DVD）などの視聴覚素材だけでなく、ラジオ・ドラマというストーリー展開のあるインプット素材は楽しく学習できる。
- (2) 「書きたいこと（表現したいこと）」と「書けること（表現できること）」のギャップを埋めるためには、発信したい（伝えたい）情報を持たせることが重要であり、そのインプット源としてラジオ・ドラマは動機付けに成り得る。
- (3) 英語産出の際には、英文が持つ「情報性」が重要であるので、自分が一番自信の持てる表現で、意図する「情報」を伝えることを、学習者に認識させる地道な指導が大切である。



達川（2015）での報告と同様に、本研究においてもラジオ・ドラマ教材は英語学習者への動機付けにおいて有益であることが支持された。しかしながら、このような教材を使うことによって英語「リスニング力」や「ライティング力」が向上したとの学習者自身の肯定的な受け止めは多く見られるものの、「どのような力」が「どれくらい付いたか」に関して実証的（科学的）に証明することは非常に難しい。また、教育実践の研究に関わっては、さまざまな因子を視野にいれなければならないことや、大学での半期4ヶ月（16回）という短期間の中で目覚ましい成果をあげることはとても難しいのも事実である。ただ、このことが外国語教育現場におけるこれらの視聴覚教材の使用を制限（否定）すべきではないことは本研究からも再度確認できた。ラジオ・ドラマなどのストーリー性のある教材の教育効果をどのように検証するかについては、今後の研究課題として引き続き取り組んでいきたい。

## 参考文献

- 岩井千秋（2000）.『第二言語使用におけるコミュニケーション方略－Communication Strategies in the Use of Second Languages－』広島：溪水社．
- 卯城祐司（2010）.「英文読解における読み手の理解修正プロセス」『英語教育学大系第10巻 リーディングとライティングの理論と実践－英語を主体的に「読む」・「書く」』大修館書店, 44-58.
- 大井恭子（2011）.「学習者を育てるライティング パラグラフ・ライティングとクリティカル・シンキング」『英語教育』59(3), 14-17.
- 岡秀夫, 金子朝子, 佐野富士子, 遊佐典昭（2010）.「第Ⅱ部第5章 第二言語習得研究」『英語教育学大系第1巻 大学英語教育学 その方向性と諸分野』150-161.
- 角山照彦（2004）.「日本における映画英語教育の流れ①－1980年代以前の流れ」『映画英語教育研究』第9号, 17-32.
- 角山照彦（2005）.「日本における映画英語教育の流れ②－1980年代の流れ」『映画英語教育研究』第10号, 3-16.
- 角山照彦（2006）.「日本における映画英語教育の流れ－1990年代前半の流れ」『映画英語教育研究』第11号, 3-14.
- 三森ゆりか（2011）.「グローバル時代を生き抜くためのスキルとは－言語技術教育の重要性」『STEP 英語情報』7・8月号, 11-15.
- 柴原智幸（2015）.「リスニングから鍛える発信力 第4回アウトプットにつながるインプットとは」『STEP 英語情報』10・11月号, 18-19.
- 鈴木克彦（2004）.「英語科ダイアログジャーナル（DJ）によるライティング指導（V.教科研究・特別研究）」『名古屋大学教育学部附属中等学校紀要』49, 112-117.
- 諏訪部真（1994）.「コミュニケーション重視の教授法」『改訂版 新・英語科教育の研究』大修館書店 pp.163-174.
- 染谷泰正（2010）.「英語教育におけるプロダクション訓練の方法論とその理論－インプットからアウトプットへの橋渡し－」（財）東京私立中学高等学校協会・東京私学教育研究所主催講演会（2010.11.8.）講演録『関西大学外国語学部紀要』第5号収録, 93-132.
- 田地野彰（1999）.『「創る英語」を楽しむ－「暗記英語」からの発送転換』丸善.
- 達川奎三（2015）.「英語ライティング授業におけるラジオ・ドラマの使用－インプット素材と

- しての可能性 ―方略能力研究に関する理論的背景』『広島外国語教育研究』No.18, 1-15.  
広島大学外国語教育研究センター。
- 田中正道（監修）野呂忠司・達川奎三・西本有逸（編）（2006）.『これからの英語学力評価のあり方 ―英語教師支援のために―』教育出版.
- 長崎政浩, 三代地幸子, 下村由紀（1999）.「ライティング・テスト」田中正道（編）『伝達意欲を高めるテストと評価―実践的コミュニケーション能力を育てる授業―』教育出版, 103-136.
- 中谷安男（2005）.『オーラル・コミュニケーション・ストラテジー研究 ―積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と目指して―』開文社出版.
- 中邑光男（2009）.「英文を書く前に『考える』ための基本的原則」『英語教育』58(4), 30-31.
- 村野井仁（2015）.「教室第二言語習得研究への招待―効果的な英語指導のために―」『STEP 英語情報』10・11月号, 14-15.
- Anderson, A., and Lynch, T. (1988). *Listening*. Oxford: Oxford University Press.
- Bialystok, E. (1983). Some factors in the selection and implementation of communication strategies. In C. Færch & G. Kasper (eds.) *Strategies in interlanguage communication* (pp. 100-118). London: Longman.
- Canale, M. (1983). From communicative competence to communicative language pedagogy. In J. C. Richards and R.W. Schmidt, (eds.) *Language and communication* (pp. 2-27). London: Longman.
- Dörnyei, Z., and Thurrell, S. (1991). Strategic competence and how to teach it. *ELT Journal*, 45, 16-23.
- Horwitz, E. K. (1987). Surveying student beliefs about language learning. In A. Wenden, and J. Rubin (eds.) *Learner strategies in language learning* (pp. 119-129). New York: Prentice Hall.
- Krashen, S. (1985). *The input hypothesis: issues and implications*. London: Longman.
- McDonough, J, and Shaw, C. (2003). *Materials and Methods in ELT - A Teacher's Guide* (Second Edition). Blackwell.
- Nunan, D. (1991). *Language teaching methodology*. New York: Prentice Hall.
- Swain, M. (1985). Communicative competence: some roles of comprehensible input and comprehensible output in its development. In S. Gass and C. Madded (Eds.) *Input in second language acquisition*. Cambridge, MA: Newbery House.
- \_\_\_\_\_. (1995). Three functions of output in second language learning. In G. Crook and B. Seidlhofer (Eds.) *Principle and practice in applied linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Tarone, E. (1981). Some thoughts on the notion of communication strategy. *TESOL Quarterly*, 15, 285-295.



## 【Appendix】

授業アンケート「自由記述」部分のコメント（77 人のうち 62 人が回答し、ほぼ原文のまま収録）  
（G1 = 文系学部生）

- ・ 難易度は適切であったと思う。話の内容も環境汚染についてよかったと思うが、語句が難しいものが少しあった。
- ・ 内容もおもしろかったので楽しく取り組むことができた。
- ・ 全ての話がつながっているため、理解もしやすかったしそれなりにレベルの高いものだったと思う。
- ・ 教科書は、ストーリー形式になっていて、内容もおもしろく、良かったと思う。毎回の小テストはとても有意義だったと思います。楽しい授業でした。
- ・ 全部のセクションで1つのストーリーになっているので勉強しやすかった。堅苦しくない内容なので取り組みやすかった。
- ・ ストーリーを楽しみながらリスニング力を身につけられたのでよかった。
- ・ ラジオ・ドラマということで、楽しく予習することが出来、負担にはならなかったです。ストーリーもシンプルなものので分かりやすかった。予習のページもしやすかったです。
- ・ 個人指導などで大変お世話になりました。ドラマティックな話が題材なのでとても取り組みやすかったし、楽しかったです。授業の後スクリプトを配って頂いたので、引き続きリスニングの練習に活用したいと思います。
- ・ ラジオ・ドラマだったので、「勉強」という感じはあまりせず楽しく学ぶことができた。次の回のエピソード展開が楽しみで予習も意欲的にできた。
- ・ 面白かったです！
- ・ 今回使用した教科書は、中学高校ではおおよそ出て来ないテーマ・内容なので、興味をもって、とても楽しく取り組みました。中学や高校は、ある意味 happy なストーリーばかりなので、このような闇の部分扱うのはとてもおもしろいと思った。音読も楽しんでできた。
- ・ 分かりやすい授業展開でこのクラスをとることができてよかったです。
- ・ 教科書の内容もおもしろかったし、毎回、ストーリーに入る前に簡単な振り返りのナレーションがあったので、それまでの内容を思い出しながら学習することができました。
- ・ 1つの教科書を通して一つのストーリーになっていて、単純に楽しみながら学習できました。
- ・ 全部がストーリー仕立てになっていたので、次の展開がどうなるんだろうと楽しみながら学習することができた。リスニングもライティングもあって始めは難しそうだったが、終わってみると力が付いたのではないかなと思う。
- ・ 受講者のレベルが高く最初は戸惑ったが、教科書の難易度は適当で、先生の授業内容や取り組む姿勢もとても熱心ですごく良かった。他の講義は多く欠席してしまっているが、この講義は楽しく受けられた。ありがとうございました。
- ・ 「ラジオ・ドラマ」を教科書とした授業は初めてでしたが、単語表現やリスニングの力の向上に大いに役に立ったと思います。
- ・ シンプルすぎる展開がおもしろかったです。語彙も増やせるし、リスニングなどもあってバランスがよいと思います。
- ・ 楽しかったです。今回のラジオ・ドラマのように全体がつながっている内容の物の方が理解もしやすいし、遅れを取らないためにも出席意欲が上がるので良いと思いました。

- ・教科書が良かったと思います。
- ・授業と毎日のメール作成課題を通してスピーキング、リーディング、ライティングのそれぞれの力を伸ばすことができたと思います。とてもたのしかったです。
- ・ストーリー性があり、学習しやすかった。
- ・話題が身近でとりくみやすく、学習が苦になりませんでした。個人的には、もう少し難易度を挙げてよかったかなと思いました。

(G2 = 工学部生)

- ・「教科書」は話が続いており、学習が楽しかった。また、課題テストによって英作文の力が付いたと思う。細かい添削も非常にありがたかった。ためになった授業になったと思う。
- ・毎週の話の内容がつながっており、楽しみながら学習することができました。
- ・この教科書は私にとって難しかったです。ですが、丁寧に解説してくださり、そういう風に答えればよかったんだ！と思うことができました。少し難しかったので一生懸命考え、考える力がつきました。
- ・ラジオ・ドラマは内容が分かり易くて、リスニングで内容を把握するのにちょうどよく感じました。難しい問もありましたが、小テスト前に復習や確認をしてくださったので何とかできました。
- ・難易度はちょうどよく教科書一冊が繋がった物語形式になっているのが、理解の助けになり良かった。
- ・難しかったけど、聞くうちに耳が慣れてきて、英語力の向上にとっても役立ったと思う。この授業で英語の能力をもっと伸ばしたいと思えるようになった。
- ・教科書は物語になっていて、教科書としてじゃなく聞いてみたいと思え、意欲が増したので良かったです。
- ・ストーリーが面白くてとても楽しみながら学習できた。最近の英語の参考書はありきたりなストーリーばかりなので、今日みたいな挫折的なストーリーはとても興味を引き付けると思う。
- ・ストーリー仕立てになっているので毎回楽しく予習に取り組めて良かったと思います。授業も分かり易くてこの授業に当たって良かったです。
- ・ストーリー性があったので、楽しんでリスニングができる教科書だったと思う。もう少しよくTOEICに出てきやすい単語とか表現とかが学べたらよかったなと思う。
- ・今までのコミュの授業の中で一番楽しかったです。教科書はとてもストーリーも楽しくて宿題もしやすかったです。
- ・教科書のストーリーが楽しめたので苦がなく学習できました。
- ・とても面白い内容で、難易度も適当だったので良かったと思う。
- ・内容がつながっていたので、文の意味を取りやすく、課題にも取り組みやすかった。自分は英語が苦手でしたがすごく楽しく問題に取り組めた。
- ・楽しくて、比較的話が分かり易く、良い教科書だと思います。私の英語能力の問題もあるのかもしれませんが、リスニングが少し難しい気がしました。もしかしたらリスニング（コミュⅡB）の教科書の方が簡単だったかもしれません。お話は本当に面白かったです！
- ・授業を始めた時はつらかったですが、慣れてくれば楽しくできました。
- ・教科書は最初のほうがかなり難しく、物語が進むにつれ、内容が把握しやすくなることもあり、徐々に分かるようになっていった。しかし、やはり全体的に難しかったように自分には思われ

た。内容はしっかりしていて楽しかったです

- ・ストーリー性のある教科書でほかの教科書よりは取り組みやすかったです。

(G3 = 教育学部生)

- ・教科書は物語だったので、続きが気になって予習していました。そのなかでなじみのなかった単語が何度も出てきて小テストでも書くうちに自然と覚えることができました。小テストでは、どこが答えかを見つける良い練習になりました。
- ・教科書で学習するのは、楽しかったので良かったと思います。次回の内容も気になったので、ストーリーも面白かったです。
- ・リスニングのストーリーの内容がおもしろいので、楽しく学習に取り組むことができた。
- ・ドラマを使ったことで内容が気になり学習に飽きがきませんでした。しかし、ストーリーがもう少しワクワクできるようなものであれば、さらに良かったと思います。大きな流れとしてはロマンスもあり、古臭い話ではなかったという点は楽しめました。
- ・絵が微妙。内容はとても面白かったです！
- ・ストーリーが意外と面白いものだったので良かったと思う。難易度はやや易しい程度に感じたが、自分はリスニングの力が乏しいのでありがたかった。悪い点は特になかった。
- ・教科書という物語の文章だったので、勉強しやすかった。ライティングの表現は頭の中で出てこないことが多く、また表現が正しいのかわからないことが多かったので、課題には多くの時間を費やしたが、その分、ライティングのレベルが少しは上がったと思う。この授業を通して、英語力をつけるのには、相当な努力が必要だと感じた。
- ・英文は分かり易く、物語の展開も分かり易くて良い教科書だと思った。普通に読んでいて面白かった。
- ・話が面白かった。
- ・使われている英語もそれほど難しいものではなく、ストーリー自体も面白い展開だったので、こういった物語を通じて英語を学ぶのは良いと思った。
- ・教科書はリスニングとライティングの両方を学ぶことができたので良かったと思う。また、全体で一つのストーリーになっていたので面白かった。
- ・ラジオ・ドラマを教科書にして使ってみて、ただ単にリスニングの問題集を解くよりも楽しくより上達できたと思いました。
- ・ライティングだけでなくリスニングの能力も向上できたと思うので、とてもよかった。もしこの授業がなかったら、おそらく一週間で一回も英語を聞かないことが多々あったと思う。難易度もちょうどよく TOEIC にも役立った。
- ・今までの教科書と違ってストーリー性もあり、実用的な表現や、現実的な会話スピード、様々なタイプの声質など英語のリスニング力を向上させるのにはとても良いものだったと思う。ラジオ・ドラマ形式の教科書はこれからたくさん使ってほしい。
- ・教科書はラジオ・ドラマで、物語という流れがあるので、非常に分かりやすく適した教科書だと思った。この授業はライティング中心でガイダンスであったものの「ライティング」よりも「リスニング」が多かった気がした。
- ・初めは中々聞き取ることができず難しい内容だと思っていたが、前後のページのキーワードなど考えたら徐々に聞き取りやすくなっており良い教科書だと思いました。また何より何度も繰り返し聞くことの大切さを学ぶことができました。

- ・教科書は物語形式になっていたので毎週楽しくリスニングの訓練ができた。TOEIC 並みの難易度ならもっと良かった。
- ・内容がそこまで難しくなかったので良く理解できて面白かった。話し言葉で表現も多くて学習の役に立つと思った。
- ・毎週 CD を聞いて、リスニングの力をつけることができた、役に立ったと思う。
- ・付属の CD が最後のトラックあたりで、上手く再生できませんでした。
- ・ストーリーがあって興味を持って学習できました。また英語を実際では使うのか学ぶことができてよかった。

## ABSTRACT

### Using a Radio Drama in English Writing Courses (2)

Keiso TATSUKAWA

Institute for Foreign Language Research and Education  
Hiroshima University

The purpose of this paper is to confirm the usefulness of using a radio drama in general English writing classes at the university level. Authentic audio-visual materials often motivate learners to watch and listen to the information provided in the target language. Recently, a lot of research has identified the merits of using films, TV dramas, and other visual materials for developing students' listening abilities. However, there have been very few papers reporting on the usefulness of radio dramas used in foreign language classrooms, especially the use of them as input to stimulate writing practice, namely to promote output activities. One of those few papers is the author's former article in the 2015 edition of this journal.

A radio-style drama of 11 episodes, *Acapulco Vacation*, was used for an English writing course in the autumn semesters of 2013 and 2014. Three different groups of students (in total 77 students) took it as a compulsory subject. One of the three groups is comprised of lower-intermediate education major students (average TOEIC score of 373.3) and the other two are comprised of intermediate-level engineering and human-science students (average TOEIC scores of 623.3 and 593.3). The students were expected to listen to one of the 11 episodes before each class, and worked on open-type comprehension questions, writing their answers on a worksheet every week. Also, each student wrote a 500-word summary of the whole story as an assignment at the end of the course. A questionnaire was conducted in the last lesson to evaluate the course.

The results of the survey indicated that most of the students found it useful to use the radio drama to practice writing as well as listening, regardless of the differences in their English proficiency or their majors. They also felt that their writing abilities had improved. In addition, many comments indicated that the use of the radio drama created positive attitudes and motivation for second/foreign language learning.